
研究活動報告

特別講演会（堀内四郎教授）

2016年4月25日（月）10:30～12:00、当研究所において、堀内四郎教授（ニューヨーク市立大学総合大学院人口学課程主任、同大学公衆衛生学大学院疫学・応用統計学部教授）による「最頻生涯年数：高齢化時代の寿命指標」（"Modal age at death: lifespan indicator in the era of longevity extension"）と題された特別講演が行われた。堀内教授は人口学における死亡・寿命研究の世界的権威であり、この分野における数多くの業績がある。今回の講演では、長寿化が進み、高齢期の死亡率改善が顕著となった先進諸国等における寿命指標として近年注目を集めている最頻生涯年数（M）が採り上げられた。一般に、寿命の指標としては平均寿命が広く用いられているが、これは生命表における死亡分布の平均値である。これに対し、Mは死亡分布の最頻値であり、高齢死亡率のみによって決定されることから、老年生存の指標として有用であると考えられるとのことであった。講演ではさらにMの他の指標との比較や特定の死亡モデルにおけるMの特性などの興味深い話題が論じられ、高齢化時代における長寿分析の最先端に触れることができた。（石井 太 記）

特別講演会

李三植（イ・サムシク）博士「韓国における近年の出生率変化と第三次政策対応 [ブリッジプラン]」

2016年6月10日（金）国立社会保障・人口問題研究所 第4・5会議室にて、韓国保健社会研究院少子高齢化対策計画団長であり、韓国人口学会会長でもあるイ・サムシク（이삼식, 李三植）博士が「韓国における近年の出生率変化と第三次政策対応 [ブリッジプラン]」というタイトルで講演された。韓国における結婚と出産の動向、低出生の原因、第1・2次低出生高齢社会基本計画の成果・評価と第3次低出生高齢社会基本計画（2016～2020）の概要について詳細に及ぶ報告があった。質疑では、評価手法について、第1・2次計画の評価は今年末に公表され、第3次計画の評価はフランス・ドイツを含む10ヶ国合同で研究チームが組まれること、非正規雇用に関するデータは定義の問題があること、教育費負担に関する政策は第1・2次計画では考えられていなかったが、第3次計画では考慮されていること、財源は、基本的に一般会計や保険（健康保険、年金、雇用保険）、自治体負担で行われるが、「低出生特別会計」を組む可能性があることなど、多くの議論が交わされた。なお、従来の特別講演会は英語で行われていたが、今回は韓国語で講演、日本語への逐次通訳が行われた。日本語・韓国語は通訳がスムーズであれば、ストレスのない交流が可能である。（林 玲子 記）

日本人口学会第68回大会

日本人口学会第68回大会は、2016年6月11日（土）～6月12日（日）に千葉県柏市の麗澤大学で開催された。大会プログラムは以下の通りである。第1日の会員総会では韓国人口学会の李三植会長の